

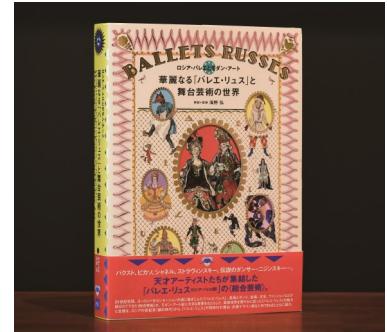
第54回造本装幀コンクール 受賞者インタビュー

審査員奨励賞：『華麗なる「バレエ・リュス」と舞台芸術の世界』

-ロシア・バレエとモダン・アート-』

出版社

パイインターナショナル 荒川佳織 氏



©佐藤祐介

●御社の活動について教えてください。

パイインターナショナルはデザイン書・ビジュアル書を中心に出版している会社で、「魅力ある文化・優れたクリエイターと、世界との懸け橋」として、新鮮な出版を目指しています。デザイナー向けの参考書から始まり、デザイン書以外にもアートブック・写真集・技法書・実用書・児童書・コミックアートなど、刊行書籍の分野を広げています。

●今回の作品のような造本にされたのは、どういった経緯があったのでしょうか。

パイインターナショナル×海野弘氏（解説・監修）のアートブック・シリーズの立ち上げ以来、多くのデザインを手がけてくださっているデザイナーの原条令子さん。

『華麗なる「バレエ・リュス」と舞台芸術の世界』は、舞台美術や衣裳のデザイン画などを見せる美術書（画集）なので、バレエやオペラの舞台のような華やかなイメージを造本・装幀でも表現していただきたく「絶対に原条さんにデザインをお願いしたい！」と思い、デザインをご依頼しました。

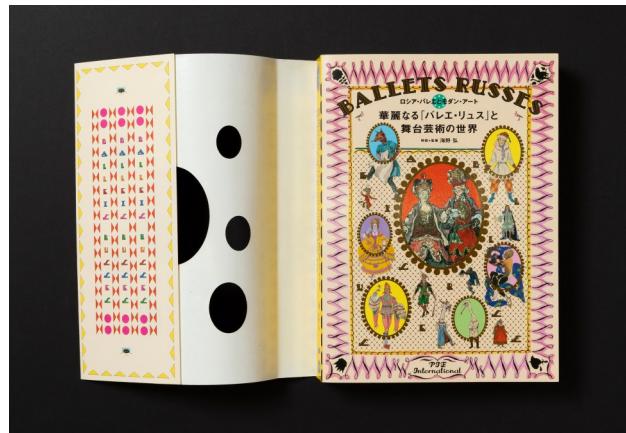
そして、東京印書館さんは毎度、美術書や写真集などインクを盛りに盛って、美しい印刷で仕上げてくださるので、本書の印刷・製本をご依頼しました。弊社ご担当の営業の奥村さんは印刷・製本に関する知識が豊富で、いつも丁寧に対応してくださいます。

はじめて原条さんにデザインのご相談に伺った際、「バレエデザイン画をたくさん収録する美術書（画集）なので、「知らない人でも手に取りやすい華やか（キャッチー）なデザインにしてください」とお願いしました。編集者としても、もっと多くの人に「バレエ・リュス」や舞台芸術について知ってもらいたい、という思いが強くありました。

原条さんに掲載される図版をご覧いただいた際、色使いが豊富で、衣裳デザイン画はモダンでダイナミックな印象、舞台デザイン画は斬新な印象を受けたそうです。「好みが分かれない、ストイックさがない、手に取りやすいデザインを目指しましょう」とおっしゃってくれました。

●応募したきっかけや、受賞の知らせの感想、周囲の反応など、いかがでしたでしょうか。

弊社は装幀に力を入れた書籍を多く出版しております。その中でも特に、『華麗なる「バレエ・リュス」と舞台芸術の世界』は、カバーに豪華な金箔押しと複数の型抜き加工が施しております。そのため、たくさんの方に手に取ってご覧いただく価値があると考え出品いたしました。



複数の型抜き加工と金箔押し

コロナ禍に造本・装幀に工夫を凝らし、やや高額な書籍を出版することはリスクがあるのではないかと疑問を感じたこともありましたが、学術的な内容も、美術書としてのビジュアルも充実した書籍に仕上がった・リュス」が日本では一般的にあまり知られておらず、めずらしい絵画なので、受賞の知らせをいただいた際はデザイナーの原条さんも東京印書館さんも、著者の海野先生もとても喜んでおられました。

●作品制作において、こだわった点、苦労した点、そのほか制作についてのエピソードがあれば教えてください。

デザイナーの原条さんには、造本・装幀全体を通して、楽しい雰囲気のデザインを目指していただきました。

カバーまわりは楽しげな雰囲気に、華やかな印象に。海外のパッケージのようなデザインを好きな方にも手に取ってもらえるようご検討いただきました。型抜きは一般的には型抜きは1、2か所が多いと思いますが、型抜きをより効果的に見せるにはどうすべきか、という点にポイントを置きデザインを考えてくださいました。

本文も楽しい紙面づくり、舞台芸術的な演出をデザインで表現できればとご検討いただきました。全ページに地色を敷いた「白地のない本」を目指し、章ごとに地色を変えるなどの工夫を施していただきました。スミベタの解説ページは「バレエ・リュス」の衣裳デザイン画のモダンさ、斬新さからイメージをふくらませ、デザインで表現していただいています。

本文用紙は、基本は平滑度が高くインクのりが良い「b7トラネクスト※」を使用していますが、全体が硬い印象にならないよう、解説ページは手触り感のある「キャピタルラップ※」を使用し、触覚的にも楽しさを感じられるような造本になっています。※用紙の名称

カバーの印刷・製本面では、型抜きしたマドを金箔押ししが縁取り、カバーと表紙の絵が連続しているので、型抜きと箔押しの位置がぴったり合うよう、東京印書館さんが細心の注意払ってくださいました。またカバーをかけた際に、背表紙の金箔押ししが左右どちらかに寄りすぎないよう、気を配ってくださっています。

本文用紙が表裏差の大きい「キャピタルラップ」と表裏平滑度の高い「b7トラネクスト」の2種類だったので、スミベタ印刷の仕上がり濃度をそろえるために東京印書館さんが製版での平アミの濃度調整をしてくださっています。

●一般の方は「造本」という言葉になじみがないかもしませんが、「“造本”の観点から、本を見る」ポイン

トがあつたら教えてください。

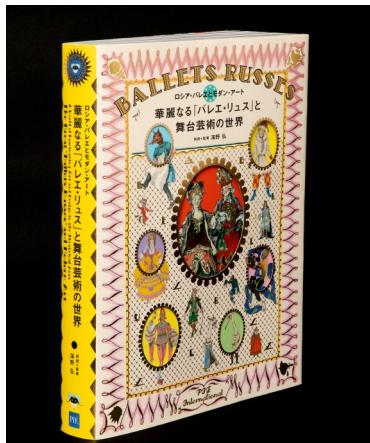
デザイナーの原条さんのデザイン・コンセプトにも通じる部分がありますが、本書のカバーに施されたたくさん型抜きや、その型抜きされたマドに金箔押しの縁取りがされていて、カバーの下にある表紙の絵柄がのぞける点など、さまざまな仕掛けを見たり触ったりして楽しめる点。

そして、本文用紙を2種類使うことで全体の手触りを楽しんでいただける点は“造本”を通して本書を楽しんでいただく大きなポイントとなると思います。

本書は「バレエ・リュス」や舞台芸術といった一般にはなじみのない内容の書籍ですが、“造本”によるビジュアルと手触りの楽しさを入口に、舞台の世界、おとぎ話のような空間に誘われるようなイメージを読者の方に感じ、楽しんでもらえるのではないかと思います。

また、弊社のパイインターナショナル×海野弘氏（解説・監修）のアートブック・シリーズは、紙の書籍でできる新しい造本・装幀の表現に毎度チャレンジし、絵画や挿絵等の実際の作品の色味をオフセット印刷でなるべく忠実に再現しようと尽力しています。

電子書籍は手軽でとてもよいコンテンツだと思いますが、上記の点を踏まえると、弊社のアートブック・シリーズをはじめ美術書や画集といったジャンルの本は、ぜひ紙の本で楽しんでいただけたらうれしいです。（了）



びたりと合った型抜きと箔押し



※作品紹介動画はこちらからご覧いただけます。